

平成 28 年度 第 1 回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 28 年 7 月 28 日（木） 18：30～19：30

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委 員：椎名委員（会長）、桐谷委員、中野委員、前田委員、降旗委員、宮川委員、
田中委員、根本委員
- 2 事務局：池谷環境部長、吉野環境課長、秋山係長（計画推進係）、齋藤係長（環境
保全係）、小沢係長（水と緑の係）、流石主事

〔欠席者〕

委 員：久富委員、金井委員、亀卦川委員、長瀬委員

〔議事要旨〕

- 1 開 会
- 2 委嘱状の交付
- 3 委員自己紹介
- 4 副会長選出
- 5 議 題
「昭島市の環境」について【資料 1】【資料 2】
- 6 その他
- 7 閉 会

〔配布資料〕

- 資料 1 第 1 章 昭島市環境基本計画
- 資料 2 第 2 章 水と緑の基本計画
- 資料 3 環境部の組織機構及び分掌事務
- 資料 4 昭島市環境審議会委員名簿

〔発言要旨〕

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
2 名の新委員（田中委員及び前田委員）に池谷部長より委嘱状が交付された。
- 3 委員自己紹介
（委員及び事務局による各自挨拶）
- 4 副会長選出
前副会長の委員退任により、規則で定める互選によって新副会長の選出を行う。

桐谷委員の推薦により長瀬委員が選出され、出席委員全員に承認された。
長瀬委員本人が欠席のため、後日意思確認を取り、改めて結果を報告するものとする。

5 議題

「昭島市の環境」について

【事務局による説明（要旨）】

○環境基本計画について

（資料 1、秋山係長による説明）

個別目標における平成 27 年度の取組状況の中から、特徴的な項目について説明する。

- ・ 1-(1)「河川の保全・啓発活動に参加した市民人数」について
平成 27 年度の多摩川クリーン作戦や水辺の楽校の参加者合計数となっている。
- ・ 1-(3)「雨水貯留槽の設置」について
設置数は前年から順調に増加している。
- ・ 1-(4)「生物多様性の保全」について
平成 27 及び 28 年度で行っている生物多様性をテーマにした環境学習講座の内容を今後の地域戦略の策定に活かしていきたい。
- ・ 3-(1)「道路交通騒音の軽減」について
国道 16 号の一地点で夜間の交通騒音が要請限度を超過したため、道路管理者である国に騒音の軽減についての要請を検討している。
- ・ 3-(2)「航空機騒音の軽減」について
新環境基準対応型の機器測定でも環境基準を達成できず、米軍基地の関係性から、今後も他の担当部署と連携しながら要請の発動等を行いたい。
- ・ 5-(1)「学校と地域が連携した環境学習の実施」について
市内小学校で実施しているキッズ I S O を 4 校で実施。また拝島二小の環境学習の一環としてエコ・パークでひまわり・かぼちゃ・花の植栽を行った。
- ・ 5-(2)「環境情報交換広場の開設」について
現状はホームページや広報にて環境に関する情報を発信しているに留まっている。目標の平成 33 年度までにはホームページ上で情報交換の場を開設したい。
- ・ 5-(3)「環境懇談会の開催」について
平成 25 年度に昭島市青年会議所と共同で、高校生を交えた環境懇談会を実施した実績はあるが、今後もそのような懇談会を実施できるよう検討していく。

○水と緑の基本計画について

（資料 2、小沢係長による説明）

施策の進捗状況について、完了済と未着手のものについて説明する。

- ・ 1) -5 残堀川的环境保全活動などを通じた市民・自治体との連携について
残堀川の清掃活動は、東京都との連携によるものは平成 24 年度で終了した。今後の独自の活動については検討中である。
- ・ 2) -22 市域の樹木・草花や水生生物をまとめた印刷物や図鑑の作成について
環境基本計画にもある生物多様性の計画の策定の中で、エコツーリズムマップを作成する方向で検討している。

- ・ 3) -33 街路樹等の購入費用を市民から募る基金の設立について

現在、毎年一部の団体から樹木の寄付を受けており、活動の様子をケーブルテレビや新聞でとり上げてもらっている。購入費用の基金設立については検討中である。

- ・ 3) -44 不要樹木の情報を必要な方に提供するグリーンバンク事業の創設について

市の生活用品交換情報では動植物は対象外となり扱えない。昨年あった事例として、市で不要となった樹木を市内の企業で引き取った件があったので報告する。

補足として、資料 2 で記載に誤りがあるため修正する。

3 ページ 1 行目

誤 5 実施状況報告（平成 26 年度）

正 5 〃 （平成 27 年度）

椎名会長： 以上の説明でご質問・ご意見は。

中野委員： 資料 1 の 4 ページ 5-(3)、環境懇談会の開催について。

以前、私自身も参加した経験があるが、高校生の若い人たちと意見を交わし非常に面白かったので個人的には復活してほしい。

秋山係長： 以前、青年会議所により、市内の高校生や市民を交えて環境をテーマとした懇談会を開催したことがあるが、青年会議所も多忙なことから、近年は実現が難しい状況が続いている。取組みの実現に向けては今後も善処していきたい。

吉野課長： 本日は欠席であるが、金井委員が青年会議所のOBであるため、相談しながら実現していきたい。

椎名会長： 組織の設立にこだわる必要はないのではないかと。誰が主導しているのか。

吉野課長： 以前は青年会議所の方からの声かけにより、未来ディスカッションという形で開催させていただいた。

椎名会長： 青年会議所だと組織化するのは難しいかもしれない。組織化にこだわらず、定期的に行うことで関心を持った人たちを増やすことの方が、パートナーシップの推進として大切なのではないかと。

池谷部長： 市と青年会議所で協働し、いろんな年代の方や委員を集めて意見を頂戴するなど、資料には組織と書いてあるが、緩やかな感じのお話し合いを 1 年に 1 回というようにしていければと思う。そして施策に反映するというようにしたい。

椎名会長： パートナーシップを推進するのだから、むしろ集まって環境の事についていろんなことを話し合うことに意味がある。役所の負担は大きいかもしれないが。

秋山係長： 主に青年会議所と連携していくことになるが、そのほかの団体、市内企業で協力先があるかもしれない。パートナーシップを推進するという目標なので、そこを第一に考えて組織にこだわらずに進めていきたい。

椎名会長： その他何かあるか。

降旗委員： 以前に（昭島市の水について）市内の自然や環境配慮施設を見学したようなことを、いろんな方々と一緒に行うというのはどうか。

秋山係長： 平成 25 年度の環境審議会でも、玉川上水やエコ・パークの自然を歩いたり、水道部の施設を見学したが、そこに一般の方も加えるということか。

降旗委員： はい。個人的にはとても良かったが、意外と市民の方には知られていない気がする

ので。部屋の中で話しているよりも、実際に共通の経験をしたり話を聞いたりすると、リアリティというか、いろんなことが考えられると思う。

秋山係長： いろんな方に参加していただくことで、コミュニケーションが図れるかもしれない。せっかくご意見をいただいたので検討させていただきたい。

椎名会長： 環境のことは、多くの場合は言われて思い起こす。湧水がどうなっているのかとか、言われて初めて見に行こうとか。見て、感じて、体験してということも必要だ。

椎名会長： 他に何かあるか。

中野委員： 資料2の4ページ14番、滝山丘陵の生態系や景観の保全について。

滝山丘陵に標高 170mの昭島市最高地点があると聞いて行って見たが、何も景色が見えなかった。あの場所は都立滝山公園の計画区域内なのか、区域外なのか。

環境課長： 全て小宮公園のセンターが管理しているので区域に入っていると思われる。

田中委員： （昨年の環境学習講座スタッフで）現地を見たが、昭島市側は管理されておらず、八王子側だけ管理されていた。

中野委員： 滝山公園の区域として拡張してもらおうとか、そういったことは難しいだろうか。

田中委員： あのあたりは西武運輸（現・セイノースーパーエクスプレス）が持ち主のため、市で介入して里山にしてということが難しい。

池谷部長： あそこは、バブル期に土地の転売を抑えるために、一定以上の土地を取得した場合には税金を納めるという特別土地保有税の措置があった際に、西武運輸が、八王子側の土地は市に寄進したため八王子市が管理しているが、昭島側の土地は市に寄進せず税金を納めたため昭島市が管理できない土地となっている。

田中委員： せめてお借りして、ボランティアで里山として手を入れたいと何度も言っているが実現しない。六道山（狭山丘陵）や奥多摩の方まで行かないで、昭島で身近な自然を手入れしたいという人たちはいる。

池谷部長： 現地は傾斜がかなりあるので、手入れは厳しい面もあるのではないかな。

中野委員： せめてピークのところだけでも伐採して、見晴らしを良くすれば皆さん感激すると思うが。昭島市民の森の、頂上の平らな部分を雑木林風に手入れしたように、平坦なところは、見晴らしを良くする程度に手を入れることはできないだろうか。

また、拝島橋を越えた先の 16 号道路沿いの右手に、滝山城跡入口の看板はあるが、昭島の最高地点入口を示すような表示は見当たらない。最高地点の存在が明らかになっていない。

椎名会長： 最高地点は誰が設置したのか。

池谷部長： 市で告示している。

椎名会長： 崖線の管理については、同ページ 10 番に多摩川由来の崖線とあるので、本来は、滝山丘陵の昭島側部分は取組みに入れなければならないだろう。次回あたりまでに、土地の所有関係や、公園法制（都市公園法・自然公園法に該当するか）を調査し、図面を作成してほしい。

また、最高地点については今後も検討してよい内容かと思う。市民としての認識のほか、パートナーシップの材料としても意味があるだろう。

池谷部長： 最高地点の所有関係をできるところまで調べたい。ただ、私有地の場合には多くの情報を開示することは難しい。

田中委員： せめて上の方だけでも下草くらい刈らせてほしいと思う。八王子側は業者も入って

おり常にきれいに管理されている。ぜひお願いしたい。

椎名会長： 他に何かあるか。なければ私から述べたい。

資料2の5ページ33番、樹木等の購入費用を募る基金の設立について。

今後の検討課題となっているが、エコ・パークで行われたソロプチミストの植樹を盛り込んでもよいと思う。ソロプチの中に基金があるというとならえ方でも良いのでは。また、今後は民間企業・団体に基金を呼びかけてもいいように思う。

椎名会長： 他に何かあるか。

中野委員： 資料2の5ページ37番、街路樹・花壇への看板の設置等について。

現在、街路樹に樹名板がつけられていないので施策化できないか。例えば、昭島駅北口の街路樹ワダスメモリーなどはユニークな名前だが一般には周知されていない。何本かに一本でも目の高さに樹名板がついていれば、市民等に親しみやすいと思うのだが。

田中委員： あそこは昭和飛行機で植えたのではないのか。

吉野課長： 道路造成・植樹ともに昭和飛行機だが、両方とも管理は市に移管している。

中野委員： イトヨーカドー周辺のトチの木も、名前を知らない人はたくさんいる。市は緑を重点にやっているが、せっかくストックが多いのにPRしていないともったいないと感じる。

吉野課長： 手法等については今後も検討していく。市の指定する保存樹木についてはすでに樹名板を設置している。従前は名前と指定日だけの表示だったが、昨年末に作成したのはQRコード付きで、携帯端末で読み込むと木の特徴が表示されるなど、親しみやすいよう工夫をしている。

田中委員： 若い人にはいいと思うが、そうでない人には恩恵が少ないと感じる。

椎名会長： 樹名板は安価ではないので、企業等に寄付してもらえるとよい。行政では予算要求してもなかなか難しいものだと思う。

吉野課長： 広告として企業名を入れるなどの方法も考えられる。

椎名会長： 企業の何十周年記念で何枚というような制度があれば。また、学校で生徒に手製で作っていただくとか。学校で行っている事業に当てはまるものをうまく誘導したい。昭和の森であればモリタウンに任せるとか。そういったやり方を考えた方が、実現性は高いと思われる。

田中委員： 昭島は水と緑のまちとしてうたっているが、水はいいが緑は年々減っている。玉川上水と昭和記念公園の緑ばかり有名だが、昭島のそれとは言い難い。農家の土地も、世代が進むと宅地化されてしまう。今ある緑を減らさない取組みをしてほしい。

秋山係長： 単純に緑を増やすのは難しい現状があるので、緑の質を高めるとか、違った面で保全していく工夫が求められる。

椎名会長： 木は植えればだんだん大きくなっていく。保存樹木などもたびたび見直しをすると増えるかもしれない。

田中委員： 中神駅北口に街路樹が一本もないのはなぜか。

吉野課長： （再開発により）電線を地中化したため木が植えられない。

椎名会長： 土壌が使えない場合は、コンテナを使う方法がある。市内の業者でも作っていると思う。費用の問題はあるが。

それと大事なものは、立川基地跡地の刑務所である。あれだけの広大な敷地にどれくらいの緑を入れさせるか、昭島市としては申し入れるべきである。URが開発する業務区域も含めると、相当な緑の増加が可能だろう。他に大規模開発でいえば、URの賃貸団地や都営住宅の建替えなどもあるだろう。

田中委員： 都営住宅ならある程度の種類の樹木を植えてくれると思う。

椎名会長： 刑務所は緑化計画を出させるとか、今からでも遅くはないと思うが。

池谷部長： 民間開発施設の部分は除き、国の部分は緑が十分に意識された計画になっている。

椎名会長： 他人任せは良くない。例えば、立川の災害医療センター、自治大学校などの周辺は市民が入れない作りになってしまった。

一方で、極地研究所、国語研究所、裁判所、市役所など、特に極地研究所は複数の施設間を通り抜けられるようになっている。施設ごとに街路を区切らずに、緑のある道でつないで市民が回遊できるようになっているのが望ましい。昭島の場合は刑務所から大山団地まで続けるようにしないといけない。

吉野課長： 施設予定地の西側道路はわりと幅広い緑地帯が計画されている。植生を決めるときに地域の団体と協議して決めたものだ。

椎名会長： それはデザインの問題であろう。前述の立川はよくできている。市役所から一般道を通らず林の中を抜けて国語研究所まで出られるようになっている。本当は、そこから災害医療センター、さらに昭和記念公園の中を歩いて立川駅まで出られるようにすればよかったのだが、後から気付いたのだろう。

昭島でも、刑務所の緑だが、市民の緑でもあるということを意識したい。昭島市の生きる道はそういうところにあるだろう。面的な緑も大事だが、利用できるような緑の仕掛けを工夫していきたいものである。

6 閉会

その他特に意見がないため、閉会する。